

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	- (事務局用)	共創による「ひとが輝き 交流ひろがる わたしたちの宇部」実現	宇部市
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	地域貢献を望む若者が仲間やチャンスと出会うコミュニティサービス“ウベクト” 持続性のある地域活動と課題解決学習が広がる街・宇部市の実現		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 (公開)	学生団体 Ube col. (ウベカレ)		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数 (公開)	6名		
代表者 (公開)	村田照真		
メンバー (公開)	平井貴大、佐野匠那、小林裕貴、下川拓斗、豊田結梨		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 **確認後 OK なら右に○印を記入➡** ○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント> 宇部市実施のアンケート調査結果によりますと、「中心市街地に魅力が喪失」し、「シティプロモーションへ不満が高まっている」のが現状です。また「地域行事での貢献」を望む若者・市民が相互に連携を深め、持続的に活動できる環境が十分に整っていません。私たちは応募チームとして、この課題を解決したいです。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

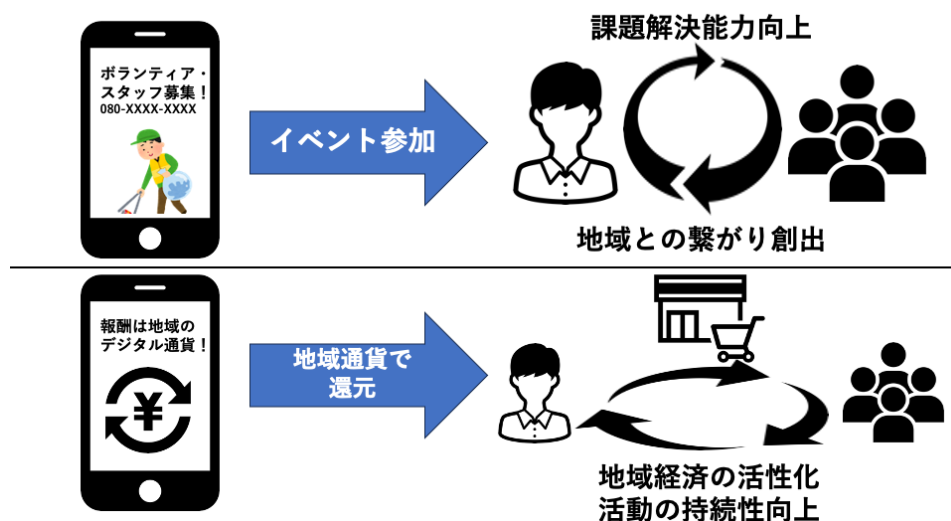
<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

“ウベクト”は、地域貢献を望む若者が仲間やチャンスと出会うコミュニティサービスです。

持続性のある地域活動と課題解決学習が広がる街・宇部市の実現。

地域デジタル通貨を導入し、経済と精神の両面から地域活動の持続可能性を高めます。



※“ウベクト”は「宇部」の学生が「コネクト」してほしいという目標を踏まえた造語です。

【何を】

地域貢献を望む学生が仲間やチャンスと出会うことで、宇部市の魅力向上と生活への満足度向上を図るサービスです。令和4年度宇部市民意識調査報告書によりますと、「中心市街地に魅力や賑わいを感じない」と回答した市民は86.2%にのぼりました¹⁾。一方、令和3年度に宇部市が実施・発表した学生アンケート調査の結果によりますと、魅力的なまちになるのに必要な取り組みとして、「にぎわいのある中心市街地」が、「人気ブランド店がある商業施設」に次いで、40.8%を占めました。また宇部市のまちづくりのうち協力したい分野を聞かれたところ、「地域の行事・イベントのスタッフ」と回答した大学生は、「特にない」と回答した学生を8ポイント上回る27%にのぼります²⁾。地域活動への参画が地域への愛着度を高めるとする先行研究³⁾もある中、**にまちづくりに関連した行事に大学生を中心とした若者世代を呼び込むことは、地域への満足度を高めるシティプロモーションにつながります。**

【誰が】

宇部市などに住み、地域貢献を望む若者が利用するサービスです。住民基本台帳によりますと、令和5年10月1日現在、主なターゲットになる宇部市の20代から30代の合計人口は、2万9,383人です。また令和5年、**市内の高等教育機関に通う学生は5203人³⁻⁶⁾**とされています。内訳は、山口大学医学部が1,187人、工学部が2,335人、宇部高専が1,066人、宇部フロンティア大学が452人、宇部フロンティア大学短期大学部が163人です。住民基本台帳によると、20歳から24歳の人口は7,447人だということです。これを踏まえると、**宇部市に住む若者の多くが学生だ**ということも確認できます。

【いつ】

若者が地域貢献をしたい**と思い立った瞬間に情報を手に入れられるサービス**を目指します。令和4年度宇部市民意識調査報告書によりますと、宇部市市政に関する情報を入手する手段について、10歳から20歳代の若者世代は広報誌、テレビに並んでインターネットやSNSを活用しています¹⁾。しかし既存のSNSでは、情報が多様化されすぎていて、宇部市でどのような地域活動をしているのかという情報が簡単には入手できない現状になると私たちは実感しています。選択肢が多すぎると選択することをやめてしまう行動経済学の「**決定麻痺**」に陥っている可能性もあるとみえています。

【どこで】

インターネット空間でのコミュニティサービスです。ここには市内に賑わいを生む地域活動に関する情報を、学生を含む市民や自治体、企業など、幅広いステークホルダーによって発信されています。また**行事ごとの情報を拠点に参加を募ることから、所属する団体・組織に依存することなく、市民レベルでつながりが生まれることにも期待**できます。

【どのように】

アプリをダウンロードし会員登録をすることでサービスを利用できます。**活動を募集されている行事に参加した学生は、主催者から原則、地域デジタル通貨で対価を受け取る仕組み**です。参加者側にとっての利点は、**市民について、地域行事に関わる中で、地域とのつながりを育むことができる**ことにあります。また学生にとっては、**募集内容に応じて新たな企画を立ち上げ、実行するという課題解決能力を培うきっかけ**にもなります。一方、主催者・地域側にとっての利点は、**地域デジタル通貨は、市内での利用を前提とすることで、経済効果が期待**できることです。

【参考文献・データソース】

1) 令和4年度宇部市民意識調査報告書

https://www.city.ube.yamaguchi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/018/371/r4isikityousa.pdf

2) 令和3年度宇部市学生アンケート調査

https://www.city.ube.yamaguchi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/012/520/shiryoushou_4-4.pdf

3) 青柳涼子、淑徳大学大学院研究紀要、2019、地域愛着および地域とのつながりを規定する要因の探索的分析、

<https://core.ac.uk/download/pdf/268068904.pdf>

4) 山口大学要覧 2023年度 <https://www.yamaguchi-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/08/Yamaguchi-University-Guide2023.pdf#page=16>

5) 学校法人香川学園 宇部フロンティア大学 <https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-public-info/a-info-education/info-students2013/>

6) 宇部フロンティア大学短期大学部 <https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-public-info/a-info-education/info-students2013/>

7) 国立宇部高専 <https://www.ube-k.ac.jp/about/data/>

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

【なぜ実現したいのか】

▽出発点は“当事者としての寂しさ”

私たち学生団体 Ube col.のメンバーの多くは、大学進学をきっかけに県外や県内のほかの自治体から宇部市に移住してきました。学校生活にも慣れてきて宇部市について感じたのは「生活がどこか寂しい」という感情です。コロナ禍の影響もあり、宇部市内には高等教育機関が複数存在するにも関わらず、生活範囲は自分が通うキャンパスと自宅にほとんど限定されていました。コロナ禍で失われた交流を復活させたい。思いを共有したメンバーが集まって学生団体を立ち上げました。

▽関わる中で見えてきた「地方が抱える課題」

団体設立を機に、自治体や地元団体・組織とのつながりが生まれました。その中で見えてきたのは、報道などで見聞きする「地方の課題」でした。市役所からほど近い商店街に足を踏み入れると、それがいかに切実な状況であるかが実感されました。「市民はこのまちをどう思っているのか」。データから客観的に分析するところから取り組みを始めました。令和3年度宇部市学生アンケート調査の結果によりますと、「今後も宇部市に住みたいと思いますか」という大学生への質問について、最も回答率が高かったのは「市外へ移り住み、宇部市では暮らさないと思う」という選択肢で、44.7%²⁾でした。さらにその理由と聞かれると、「公共交通機関が不便」とか「娯楽・レジャー施設が不足している」、「買い物不便」などの回答が選ばれています。確かに内閣官房が運営する地域分析システム RESAS³⁾では、宇部市からの転出超過先のうち県外で最も多いのが福岡市博多区だということでした。しかしここから導き出されるのは「宇部市での学生生活では寂しさを抱えながら過ごし、卒業後は都市に移り住めばいい」という答えだけです。この答えに納得できない私たちは thin data だけでなく thick data にもあたりました。

▽つながりを求める時代

宇部市での生活に寂しさがあるのはなぜなのか。疑問に対する答えを探すため、私たちは地域で活動に取り組むほかの団体の学生はもちろん、こうした取り組みに参加していない学生にも幅広く聞いてみました。また宇部市・連携共創推進課と協働し、若手職員との意見交換会⁹⁾を計画しました。そこから見えてきたのは、学生を中心とした市民が抱える宇部市への関心・信頼の希薄さ、あるいは情報取得が難しい現状でした。「市の広報誌なんて見ない」「行政がやっているイベントってつまらなそう」。こうした意見に加えて、「長く宇部市に住んでいる人はコミュニティが出来上がっているが、学生の間だけ移り住んでいる立場だと活動などにも参加しにくい」「仲間が見つかりにくい」という声もありました。一見、否定的な意見ばかりです。しかしここから見えてきたある仮説がありました。それは市民がこれまで以上に相互の連帯を求めるようになってきている可能性です。すべての意見が「的確な行事と、それに関する情報発信、一緒に取り組む仲間がいれば参加したい」と聞ける声ばかりでした。生活の中に感じていた寂しさは、ここが経済規模の大きな都市でないからではなく、連帯するきっかけが少ないことを理由としているのではないかと思ひ至りました。

▽「ハード的ハコモノ」から「ソフト的ハコモノ」へ

こうして仮説に行き着いた一方で、その確からしさは、私たちは実体験として感じてきていました。団体設立後、自治体や地元企業と連携しながら、イベント開催などに取り組んできたことから背景にあります。こうした中で生まれた地域とのつながりによって、私たち自身が宇部市への思いを強くしてきたからです。山口県は、経済規模が大きな福岡県や広島県に挟まれています。娯楽・レジャー施設は、都市部に設立されるのが一般的で、この流れを変えるのは現実的ではありません。実際、令和4年度宇部市民意識調査報告書で、宇部市を「娯楽・レジャー施設が不足しているから住みにくい」と回答した市民の割合は、ミドル世代で47.3%なのに対し、若者世代は43.8%と下回っています。これには、インターネットを活用して自宅で楽しめる娯楽の登場などが影響していると推測しています。これも踏まえて、私たちが取り組んできたように、ハードとしての施設を造設してにぎわいを生むのではなく、デジタル技術を導入したソフトとしての新しい共同体をつくることで活気づけていくという今回のアイデアに辿り着きました。

【なぜいいの？】

▽潜在的担い手・利用者は大学生など最大約 1,400 人

「(1)アイデアの内容」で紹介したデータに基づくと、宇部市のまちづくりについて、地域の行事やイベントスタッフとして協力したい大学生は、最大約 1,400 人だと見込まれます。

▽成長が期待できるマーケットで需要が見込める

地域コミュニティアプリは全国で展開されています。地域交流型アプリ「ピアッツァ」¹⁰⁾は全国 60 以上の自治体と協定を締結しています。コミュニティアプリ「GOKINJO」¹¹⁾はマンションに焦点を絞ったサービスです。これからもデジタルコミュニティが今後も広がっていくことが予想されます。高等教育機関が複数存在し、大学生のマンパワーが期待できる宇部市だからこそ、学生など若者世代に特化したコミュニティサービスは地域活性化につながる可能性があります。

▽時代が変化する中、学生の課題解決力向上と活動の持続性に

人口減少や技術革新などを背景に、時代は大きく変容しています。去年、経団連がまとめた「新しい時代に対応した大学教育改革の推進」という提言書によると、Society5.0 において企業が求める能力や資質に「課題発見・解決力」や「未来社会の構想・設計」が挙げられています¹²⁾。しかし日本の大学教員が教育と研究の両立に困難を感じている¹³⁾などの現状を踏まえれば、課題解決能力発掘は学生が自ら取り組むべき領域だと考えられます。一方、これまで活動に取り組んできた実感として、地域行事への参加はボランティアであることは珍しくなく、これが持続性を低下させていると感じています。持続性向上のため、自治体や賛同する地元企業から対価を受け取る仕組みにしつつ、これを地域に還元するために原則、地域デジタル通貨で支払う形式を導入したいと考えています。

【参考文献・データソース】

8)地域分析システム RESAS <https://resas.go.jp/data-analysis-support/#/top/-/-/-/>

9)宇部日報 学生の「ウバカレ」と市の若手職員が意見交換、まちづくり探る

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d94f2e5da1b9287d54d9d97d64ea82a2f51d41f2>

10)地域コミュニティアプリ「ピアッツァ」 <https://www.lp.piazza-life.com/business/piazza>

11)コミュニティアプリ「GOKINJO」<https://conepla.co.jp/>

12)一般社団法人日本経済団体連合会 提言「新しい時代に対応した大学教育改革の推進 -主体的な学修を通じた多様な人材の育成に向けて-」 https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/003_honbun.pdf

13)文科省教育と研究を両輪とする高等教育の在り方について https://www.mext.go.jp/content/20210208-koutou01-1422495_00010_017.pdf

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

実現する主体は、**20代から30代の若者世代**です。初期段階では、学生が中心的役割を担うことを見込んでいます。これは、学生では、基礎学力や論理的思考力の向上と並行させながら、課題解決能力も鍛えたいというモチベーションをもつ人の割合が高いと見込まれることが背景にあります。

また初期段階への到達・達成に取り組む主体は、私たち学生団体 Ube col. や、すでに地域で活動を実践している団体・組織です。私たちは、自治体が主催する行事の一部受託や、地元企業とのイベント参加などを通じて、資金調達や課題解決能力向上を達成しました。**宇部市では提案アイデアがアナログで実現しつつあると理解しています。**サービス開発後は私たちが自治体などと取り組んでいる事例をデジタル化することで、アイデア実現をリードします。

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

実現に向け必要な資源は、①**地域行事開催などに向けて企画・運営を予定する自治体や地元企業（ヒト）**と、②**地域デジタルコミュニティサービスの新規開発や既存サービスの活用（モノ）**、③**これらに要するカネ**です。

①について、**賛同いただきたい団体数の大まかな規模は最大 48 団体**です。主催者数は一定を確保する必要があります。開催にあたって投資する経済的・時間的コストが、特定の組織・団体に集中すると、結果として、短期的な取り組みに終わってしまい、持続性が失われるからです。地域活性化に結びつき、さらに参加者に対価が支払われる行事にするという条件だけを設け、週に 1 回実行すると仮定すると、【1（回）*4（週）*12（ヶ月）=48（団体）】です。**調達方法は、宇部市で事業などに取り組む組織・団体への声かけ**です。

②について、目指す大まかな規模は、**宇部市の学生など若者のユーザー約 1,000 人のサービス**です。学生の行事への認知を向上させるという目的を踏まえると、若者への普及率が指標になります。米国研究者・エベレット・ロジャーズが提唱した理論によると、商品普及については市場の 16% が分水嶺になるとされています。【5,203（人）*0.16=885（人）】です。**調達方法は、新規開発または既存サービス活用**です。なお既存サービスの候補の一つとして検討されるのは、**登録者数約 2 万 5,000 人を超える市の公式 LINE**です。これは新規開発と比べて、実現可能性を重視する選択で、キャッシュレスアプリのポイントや、地域限定食事券、特産品への還元が検討できます。

カネのうち①について、賛同団体が拠出して行事が実施される形式を想定しています。全体として**活性化による地域の経済活性化や持続的発展、人脈づくりなどで、団体への還元**を目指します。さらに新規サービスでは、デジタル通貨による還元を想定しています。また既存サービス活用でも、ポイントや食事券などで還元されます。②については、新規開発では百万円単位の予算が必要ですが、構想実現に即したサービスづくりが可能です。一方、既存サービスを活用する方針では、予算を抑えられますが、還元方法に地域性を十分に与えられるよう検討する必要があります。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

【これまでの時間軸】

これまで私たちは、「生活の中で感じていた寂しさ」を出発点に、地方が抱える課題の原因を探ってきました。それと並行して地域行事に参加し、仲間が増えてくると、徐々に「地域にとけ込む学生団体」となってきました。結果として、こうした地域とつながりがある共同体を形成することは、私たちにとって、宇部市への思いを強めるきっかけになったほか、社会課題と真剣に向き合う姿勢を身につけることにつながっています。学生団体 Ube col.の設立からこれまでの取り組みを紹介することで、本アイデアの実現主体である学生のカスタマージャーニーを想像する手がかりとします。

経過：2022年

11月	学生団体 Ube col.設立。宇部市にある都市公園・ときわ公園でのボランティア活動から始める。
12月	イルミネーションイベント・TOKIWA ファンタジア初出展。地元企業から協賛獲得。優秀アイデア賞。

2023年

2月	メンバーが宇部市施設「石炭記念館」の「あり方検討委員」に就任。
3月	県主催「Yamaguchi Pitch Day in 松下村塾」プレシードスクール部門最優秀賞。 市主催イベント「WAKUWAKU マーケット」事業を一部受託。小学生向け WS を実施。
4月	地元高校生が開催した「新天町こども春祭り」に参加。 団体内 県議選に関する討論会開催。山口朝日放送「J チャンやまぐち」で放映。 一部メンバーが株式会社 UBE COL 設立。
5月	宇部市と包括的連携協定締結。
6月	地元企業や自治体と共同でフードロス解決を目指す実証実験。
8月	宇部市から受託業務としてときわ公園で 2 イベントを実施。2 日で 300 人動員などの実績。
10月	市主催「宇部スペインフェスタ」に運営スタッフとして参加。 外資系企業から「学生と社会人の交流」をテーマにしたイベント受託。初回。
11月	宇部市若手職員との意見交換会を開催。 地元企業と協働し山口大学・学祭に出店。目標以上の売上を達成。

【これからの時間軸】

	2024年		2025年		2026年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
行事等主催 組織・団体	参画募集	目標：約10団体 (半年間隔週で開催を想定)	実証実験	稼働開始		
サービス開発関連	協議期間	開発・実装等				
大学等教育機関	協議期間	広報・連携継続				

私たち学生団体 Ube col.やアイデアに賛同してくださる学生と、自治体が共創しながら、このスケジュールに従って、アイデア実現を目指します。スケジュール表の縦軸には、主要なステークホルダーである▽行事などを主催する組織や団体、▽サービスを開発する個人や法人、▽学生が所属する大学を並べました。横軸には、3年計画として、2026年までを並べています。まず念頭に置きたいのは、実証実験について、再来年（25年）前期からの開始を見据えています。3年間のうち本格稼働を半期3期実施したいことが背景にあります。これを前提に、行事を主催する組織・団体に対しては、来年前期に参画を呼びかけます。目標は実証実験を成立させるために約10団体を目標とします。またサービス実装に向けて、来年1年間をかけて、開発方法などの協議や開発・実装を行います。但し既存サービスを活用すれば、この期間は短縮することが可能です。また実施する主体である学生に対して、訴求力が高い大学との連携も欠かすことができません。このサービスは、社会課題解決に取り組む学生がデジタルコミュニティでつながることを目標にしています。私たちの活動と枠組みがデジタル空間に転じることで、幅広い学生が団体の所属などにとらわれることなく、横のつながりを市内で広げていくことができるよう取り組みを続けていきます。